研究タイトル：

曖昧さをめぐる歴史・文化地理学

氏名：	谷津 亮太郎 ／ YATSU Ryotaro	E-mail：	r-yatsu@numazu-ct.ac.jp
職名：	助教	学位：	修士（文化研究）
所属学会・協会：	人文地理学会　歴史地理学会		

キーワード：	地域文化、空間認識、風景、災害復興、文化地理学、歴史地理学
技術相談 提供可能技術：	・地域文化の分析/研究 ・歴史的都市構造の解読 ・過去から現在にかけての地域変遷に関する知見

研究内容：

・地域文化をいかに射貫くか

地域には、様々なモノが混在しています。英国の地理学者 D.マッシーは「場所について特別なこととは、あらゆるものがともに投げ込まれていること」なのだと指摘しましたが、地域も同じだと考えています。街を歩けば、古くからそこにある神社や伝統的な建築様式を持つ古民家のようなものと共に、海外資本のチェーン店、全国的に展開しているコンビニエンスストアやファミリーレストラン、地域 PR のためのご当地マスコットのパネルまで、あらゆるものが「ともに投げ込まれている」のが現代の我々が住む世界です。

さて、こうした様々なモノが投げ込まれた地域の中で育つ文化とは、やはり複雑な形をしているものです。例えば、地域の信仰の問題などは、それをよく示しています。東京都千代田区大手町にある「将門塚」は、現代においても周辺企業が中心となり保存がなされ、信仰の対象となっている場所です。近年の大手町再開発でも、やはりこの場所は残されました。ただし、「将門塚」に関する記録は明治末期にまでしか遡れません。どうもこの時代に成立したものらしいのです。

なので、ここには平将門の首はありません(大正時代の発掘記録もあります)。ただし、それをもって将門塚への信仰は社会的構築物だというのは少し違います。なぜなら、「将門塚」がある場所は江戸時代から平将門を祀る神社の跡地として知られた場所でした。なので、信仰の場所としては確かなものです。江戸時代からの信仰の場所が、明治期に「将門塚」として国や新聞によって宣伝され、大正時代に将門塚の整地が行われると「祟り」という言説を生み、戦後から高度経済成長期において様々な都市伝説を生み出しながら、現在の地域における信仰となったわけです。あらゆる時代の出来事が重層的に作用しながら、周囲の企業を巻き込んで今目の前にある現象—文化—が生じているのだということになるでしょう。将門の首はそこにないが、信仰の場所としては古い場所、このような曖昧な存在は、あらゆるモノが共に投げ込まれる複雑な地域の作用によって生じるのだと、私は考えています。

私の関心は、地域文化の中で真贋を論じるところにはありません。そうではなくて、いかに複雑に現実もフィクションも織り交ぜられながら地域の中で文化が織られてゆくのか、という点にあります。また、近年ではこうした地理学的研究で培った地域研究のノウハウを生かしながら、災害研究にもかかわっています。

塚と地域文化に関する講演の様子

原子力災害を被った福島県飯舘村でのフィールド学習

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	

教養科